
血液透析患者における胆汁酸トランスポーター阻害薬(エロビキシバット水和物;EH錠)の排便効果

医療法人衆和会 長崎腎病院

○植木秀一 白井美千代 丸山祐子 林田征俊 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

当院にて既存治療薬で排便困難な透析患者におけるEH錠の効果を検討する。

【対象・方法】

ルビプロストンでの治療で十分な排便が得られない9名をEH錠に変更し、前治療薬とEH錠投与後の(1)自然排便発現時間、(2) Bristolスケールでの便硬度で排便効果を比較検討する。

【結果】

有意差はなかったが、EH錠はルビプロストンと比較して自然排便発現までの平均時間短縮が得られ(46時間:30時間、 $t=0.1359$)、便硬度は有意に正常値に近い値となった(45%:78%、 $t=0.9015$)。

【考察】

EH錠は既存の便秘治療に比べて有用性が高い可能性が示唆された。今後症例を追加して報告する。